No. １０９　2015 年 9 月号

沙羅の樹文庫だより

文庫あれこれ◆空は荒れ狂い、河川を決壊させ、家々を呑みこみ、人々の日常を脅かしています。東京湾沖では直下型のかなり強い地震もありました。◆まるで国会の喧騒を煽るように。こんな言い方はよくありませんが、施政者たちよ、よ～く考えてください。◆被害に遭われた方、心よりお見舞い申し上げます。◆今年は残暑なしに秋へ移行でしょうか。凌ぎやすくなったのは良しとして、街ゆく人が早々に長袖を着こみ、夜は掛け布団が恋しくなってきました。(去年はどうかしらと、９月の〈文庫あれこれ〉を見たら、やっぱり急に寒くなり風邪をひいた、とありました)◆夜が更けて雨もあがってやっと虫の声も聞こえてきました。(18日)◆取り立ててハードな生活をしているわけでないのに倦怠感を感じ、今更に健康の２文字が輝いて見えます。日頃体を鍛えていらっしゃる方敬服いたします。今からでも頑張って早朝歩きでも始めますか。◆今度、機会があってシニアの方たちの読み聞かせボランティアをやることになりました。介護ホームやデイサービスの集まりに出かけて、聴いていただくそうです。同世代以上の方にどんなことができますか、少々びくついています。◆あなたの読書傾向は年を経て変わりましたか。いま、必要に迫られて 40 代のある作者の本を読み漁っているのですが、かつて若い頃は嫌いでなかった心をえぐるような話、報われない愛の話、他者を苦しめる話についていけなくて参っています。今は時代小説(過ぎ去った昔の話として)は気を楽にして読めるような気がします。海外の小説も客観的にとらえられるからか、読めます。特に最終的に希望の持てる話が今はいいです。子どもの本も日本のものより海外のもの。◆映画「２つの名前をもつ少年」(原作『走れ、走って逃げろ』request で入れました。)を観ました。原作に対して誠実に描かれていてよかったです。◆今年の中秋の名月は 27 日とか、心おだやかに月を眺めたいものですね。(西村)

駐車について
　駐車可能な場所:文庫駐車場 3 台・ハナミズキさんとサウスフィールドさん(駐車場が空いているとき)・グラナダさんの昼休み時間(14:00～17:00)・文庫下道路左折したところ
※遠笠山道路スパゲティやさん跡は駐車×になりました。 路上駐車×です。
　ご面倒をおかけしますが、遵守願います。
(沙羅の樹文庫)

✿2015 開館スケジュール✿
◆10 月は通常 17 日(土)18 日(日)
◆11 月は通常 14 日(土)15 日(日)
◆12 月は通常 19 日(土)20 日(日)
◆１月は通常 16 日(土)17 日(日)
◆２月は通常 21 日(土)22 日(日)
文庫の時間
土曜日は午後２時～５時
日曜日は午前 10 時～午後 3 時
❤毎月開館日の日曜
「子どものための小さなおはなし会」10:30～11:00

✿おはなし沙羅の勉強会✿
毎月開館日(土) 11：00～13：00

第 15 回海の日のおはなし会が終わって

沙羅の樹文庫　0557-51-3737
http://www.saranokibunko.com

通りすがりの家の庭先で、色鮮やかな葉鶏頭が目に残りました。幼い頃、祖母が慈しんで育てていたのを思いだし、心まで鮮やかになりました。(画像はネットから)

あきのひ
のぎくみちこ
かぜが
とおりすぎました
わたしは　はなびらを
ゆすりました
だれかに
よばれたきがして
ふりかえると
ゆうひが
くるくると
しずむところでした
(工藤直子)

お願い
2016 年 7 月海の日で文庫は 10 周年を迎えます。会員の皆さま、スタッフの方々のおかげで、何とか続けてこられました。
そこで10周年誌を作りたいと考えております。5周年誌に寄稿してくださった方々はもちろん、会員の皆さまに、一文をお寄せいただきたいと思います。
できましたら、文庫で読まれて心に残る本の感想文をお願いいたします。もちろん、ご自分の詩、短歌、俳句、日頃思うこと、などでも結構です。
字数は800字～1200字以内
原稿締め切りは2015年12月20日文庫開館日
詳細は別途お知らせします。
どうぞよろしくお願いいたします。(沙羅の樹文庫)

2015年9月に読んだ本についての感想　2015. 9. 17 by 森林浴

『スマート・テロワール—農村消滅論からの大転換』 松尾 雅彦著 学芸出版社刊 2015 年 12 月第1版

殆ど毎日、伊東市の代表的な農業地区(数年前天皇・皇后両陛下が散歩されて、記念碑まで建てられている)池地区へ出かけて散歩していますが、広い農地は稲が植えられて今は実りの秋と云う時期なのに、実はなんと全体の三分の一は放置され鬱蒼たる茅が生えている、のにはびっくり。農地は三分の一が—*見捨てられている*—のです。と云う訳で、柄にもなく一体日本の農業はどうなるのか、というテーマに否応なく向き合う羽目になりました。
著者は株式会社カルビーの社長だった人で、次のような提案をしています。
日本では農地の使い方を大転換する。過剰になっている米作りを縮小し、田圃を畑に転換、馬鈴薯・小麦・大麦・大豆・玉蜀黍などをつくり、傾斜地は棚田でなく牧場にして酪農を行い、さらに地域に食品工場を作って工業による雇用拡大をはかる。一定の規模の地域ごとに自給圏を作って地産地消に徹することにより、瀕死の農村を立て直す、という大目標—これをスマート・テロワール作りと呼ぶ—を提案している。
しかしこの計画の実現には少なくとも 30 年はかかるというので、相当の覚悟で取り組まなければならないと云います。
読んでいると自分の農業に対する知識の乏しさに気が付く。たとえば、「耕種農業」「互酬」「子実トウモロコシ」「4年輪作」などが分からないなど。
株式会社カルビーは年間売り上高約 1000 億の会社で、馬鈴薯から作るポテトチップスが主製品。私はよく「カルビーのかっぱエビセン」を食べるのでこの会社の名は良く知っていましたが。著者は大変な勉強家で、日本各地の実態をよく見ているのみならず、米国や欧州の農業・農村の実態をよく研究している人のようです。235頁には南伊豆の松崎町の桜葉の事業化の話も出てきます。折から今難民がヨーロッパに殺到、ドイツが大量に引き受けているようですが、

『ドイツ帝国が世界を破滅させる』 エマニュエル・トッド著 堀 茂樹訳 文春新書 第1版

エマニュエル・トッドを読むといつも感嘆させられる。この人はまさに「恐るべき現代世界の預言者—」！
とは言っても、彼は家族人類学・歴史人口学の学者で、彼の「予言」は綿密に調べられた堅固な統計的な事実の上に築きあげられた鋭い洞察であり、これは当たるんですね。(かつてソビエト・ロシアの終焉を、乳幼児死亡率の上昇から予言し的中させたことで、一躍世界に名を知られた。)　世界の歴史を眺めながら、マクロ的な鋭い洞察力を働かせる人というと、「文明の衝突」を著したサミュエル・ハンチントン、「歴史の終焉—最後の人間」を記したフランシス・フクヤマ、それに米国の大統領のアドバイザーを務めたキッシンジャーやブレジンスキーなどが思い浮かびますが、トッドはその中でも最もユニークな論客でしょう。
現在EU(European Union)は統一通貨「ユーロ」のもとに、ギリシャの経済破滅危機に直面、EUの解体危機まで論じられていますが、エマニュエル・トッドが言うような、EUが実質ドイツの覇権のもとに集約され、影響力が弱くなりつつあるアメリカと対抗するようになって、ドイツがヨーロッパ大陸を牛耳るようになるだろう、ロシアのウクライナ干渉は正常の範囲、といった考え方は私には思いもよらなかったもので、びっくりしました。色刷りの口絵の図解や数多くのグラフはその証明です。折から今難民がヨーロッパに殺到、ドイツが大量に引き受けているようですが、トッドが云っているように、これも「安い労働力の確保」、というドイツの隠された意図があるとすれば、一概に感心ばかりはしていられないな、と思わされます。トッドのドイツ嫌いはどこからくるのでしょう。
彼は云う。「アメリカとドイツは同じ諸価値を共有していない。大不況の経済的ストレスに直面したとき、リベラルな民主主義の国であるアメリカはルーズベルトを登場させた。ところが、権威主義的で不平等な文化の国であるドイツはヒトラーを生み出したのだ。」≪63 頁≫
それにしてもトッドの、母国フランスの政治家に対する失望、そして非難は激甚で、現大統領オランドを「ドイツ副首相オランド」と呼んで、ドイツを牽制すべきフランスがドイツに隷属していると非難しています。しかし本の題名、『「ドイツ帝国」が世界を破滅させる』というのは極端な云い方で、トッドがつけた題名ではなく出版社(文芸春秋)が本を売るためにつけたのでしょうが、ちょっとどうなのかと感じました。
とにかく20 年後に振り返ったら、トッドの予言はやはり正しかったということになるのでしょうかね。

15年9月に入った子どもの本

≪広瀬おばさんから≫

絵本(日本)

『ぼうし』(長新太さく　のら書店) ID11755
『ふしぎなタネやさん』(みやにしたつや作・絵　金の星社) ID11761
『ティモシーとサラ　ちいさなとしょかん』(芭蕉みどり作絵　ポプラ社) ID11758
『あげます。』(浜田桂子作　ポプラ社) ID11756
『おおきなおおきなにんじん』(刀根里衣絵・文　小学館) ID11752
『カブトムシのなつ』(いしいつとむ作　文研出版) ID11750
『のはらでまたね』(はせがわさとみ作　文渓堂) ID11749
『仙人のおしえ』(おざわとしお再話　かないだえつこ絵　くもん出版) ID11759

絵本(外国)

『ねこのピートーだいすきなよっつのボタン』(エリック・リトウィン作　ジェームス・ディーン絵　ひさかたチャイルド) ID11751
『ちいさなきしゃとおおきなおきゃくさん』(クリス・ウォーメル作・絵　小風さち訳　徳間書店) ID11753
『ほしをひろった? ムーミントロール』(トーベ&ラルス・ヤンソン作　当麻ゆか訳　徳間書店) ID11754
『ニャーロットのおさんぽ』(パメラ・アレン作・絵　野口絵美訳　徳間書店) ID11757
『ちいさなワオキツネザルのおはなし』(オフィーリア・レッドパス作・絵　松波佐知子訳　徳間書店) ID11760
『ちいさなメリーゴーランド』(マーシャ・ブラウン作　こみやゆう訳　瑞雲舎) ID11762
『ピッピ、お買い物にいく』(アストリッド・リンドグレーン作　イングリッド・ニイマン絵　いしいとしこ訳　徳間書店) ID11763
『ワニくんとパーティにいったんだ』(ジュディス・カー作・絵　こだまともこ訳　徳間書店) ID11764

読み物(日本)

『とりはだはどうやったらつくれる?』(河北亮司作　新日本出版社) ID11695
『つばさ』(大島理恵作・絵　文研出版) ID11694
『ロードーキャンピングカーは北へ』(山口理作　文研出版) ID11693
『シノダ! 都ギツネの宝』(富安陽子作　偕成社) ID11700
『おうだんほどうのムッシュトマーレ』(香坂直作　小学館) ID11699
『波のそこにも』(末吉暁子作　佐竹美保絵　偕成社) ID11698
『すし食いねえ』(吉橋通夫作　講談社)ID11697
『万次郎ー地球を初めてめぐった日本人』(岡崎ひでたか作　新日本出版社)ID11741

読み物(外国)

『くろねこのロク　空をとぶ』(インガ・ムーア作・絵　なかがわちひろ訳　徳間書店) ID11688
『海をわたったビスクドール』(ジョーン・ホルブ作　かとうあさこ訳　国土社)ID11692
『夢へ翔けてー戦争孤児から世界的バレリーナへ』(ミケーラ・デプリンス作　田中奈津子訳　ポプラ社) ID11687
『クララ先生、さようなら』(ラヘル・ファン・コーイ作　石川素子訳　徳間書店) ID11691
『一年後のおくりもの』(サラ・リーン作　宮坂宏美訳　あかね書房) ID11689

伝記・作家研究

『エドワード・アーディゾーニ―若き日の自伝』(エドワード・アーディゾーニ著　阿部公子訳　こぐま社) ID11686

・・・・・

ノンフィクション

『ガザ―戦争しか知らないこどもたち』(清田明宏著　ポプラ社) ID11776　※寄贈森川

文庫で購入・読み物

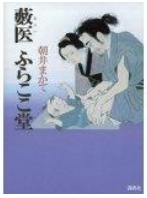
『へんてこもりにいこうよ』(たかどのほうこ作・絵　偕成社) ID11681
『へんてこもりのなまえもん』(たかどのほうこ作・絵　偕成社) ID11682
『へんてこもりのきまぐれろ』(たかどのほうこ作・絵　偕成社) ID11683
※以上3冊(へんてこもりのはなしシリーズの①③⑤) ②④はすでに文庫在
『走れ、走って逃げろ』(ウーリー・オルレブ作　岩波少年文庫 2015) ID11685※映画「ふたつの名前を持つ少年」の原作、

15年9月に入ったおとなの本

フィクション

『スクラップ・アンド・ビルド』(羽田圭介著　文藝春秋 2015) ID16319
※芥川賞受賞

『ヤモリ、カエル、シジミチョウ』(江國香織著　朝日新聞版 2014) ID16320
『Masato』(岩城けい著　集英社 2015)ID16321
『薮医ふらここ堂』(朝井まかて著　講談社 2015) ID16322



『劉邦　上・中・下』(宮城谷昌光著　毎日新聞出版 2015) ID16331～3
『Q　上・下』(ルーサー・ブリセット著　東京創元社 2014) ID16324,5
※request
『声』(アーナルデュル・インドリダソン著　東京創元社 2015)ID16323
『夜が来ると』(フィオナ・マクファーレン著　早川書房 2015) ID16334
『いないも同然だった男』(パトリス・ルコント著　桑原隆行訳　春風社 2015) ID16335

エッセイ・ノンフィクション

『鴎外と漱石のあいだで―日本語の文学が生まれる場所』(黒川創著　河出書房新社) ID16337
『ヨーコさんの"言葉"』(佐野洋子文　北村裕花絵　講談社 2011) ID16336
『百歳までの読書術』(津野海太郎著　本の雑誌社 2015) ID16338
『ガレキのことばで語れ』(照井良平著　詩人会議出版 2012) ID16340※寄贈
『チャップリンとヒトラー』(大野裕之著　岩波書店 2015) ID16343
『アウシュヴィッツを志願した男』(小林公二著　講談社 2015) ID16342
『老妻だって介護はつらいよ』(沖藤典子著　岩波書店 2015) ID16341

『1945←2015―若者から若者への手紙』(室田元美、北川直美聞き書き　ころから 2015) ID16339※寄贈

新書・文庫

『にほんご歳時記』(山口謡司著　PHP 新書 2015) ID16330
『ヘイトスピーチ』(安田浩一著　文春新書 2015) ID16329
『日本とドイツ―ふたつの「戦後」』(熊谷徹著　集英社新書 2015) ID16328
『第2図書係補佐』(又吉直樹著　幻冬舎よしもと文庫) ID16327
『仮往生伝試文』(古井由吉著　講談社文庫 2015) ID16326

いただきました。

『意次の妄(居眠り磐音江戸双紙 49)』(佐伯泰英著　双葉文庫 2015) ID16318
『動機』(横山秀夫著　文春文庫) ID16317

※小野さんいつもありがとうございます。
(佐伯泰英本はほとんど毎月新刊を寄贈いただいています)

ます大人も子どもの本を・・・④

夏に展示した戦争を描いた本を書棚に戻すまえに、何冊かご紹介しておきます。

★ロバート・ウェストール

『猫の帰還』(徳間書店)：出征した主を追って、海を越えた猫の話。忘れられない1冊。
『水深五尋』(岩波書店)：砂浜で発信器らしきものを発見した少年。友人達と始めたスパイ探しは、次第に深刻な事態に…。　ほかに
『海辺の王国』(徳間書店)：ドイツ軍に家を焼かれ家族も失ったイギリス少年がそれでもたくましく生きてゆく話。
『弟の戦争』(徳間書店)：湾岸戦争は・・・。
『機関銃要塞の少年たち』(評論社)：墜落したドイツ機から見つけた機関銃を少年たちは・・・。
『禁じられた約束』(徳間書店)：戦下に悲しく散った初恋の行方には。
※著者はなくなりましたが、読み応えのある心を打つ考えさせられる話ばかりです。

★ウーリー・オルレブ

『壁のむこうから来た男』(岩波書店)
『壁のむこうの街』(偕成社)
『砂のゲーム』(岩崎書店)
『走れ、走って逃げろ』(岩波少年文庫)：映画化
※ナチの収容所から生還した人。過酷だけど、未来を見つめる姿勢が素晴らしい。

★マイケル・モーバーゴ

『カイトーパレスチナの風に希望をのせて』(あかね書房)
『戦火の馬』(評論社)：映画にもなりました。
『モーツアルトはおことわり』(岩崎書店)
『ゾウと旅した戦争の夜』(徳間書店)
『兵士ピースフル』(評論社)：衝撃の作品でした。今でもショックは忘れられません。

今回、3人の作家の一部の紹介で終わりましたが、おすすめはまだまだあります。展示以外にもほかの作品のリストを作成する予定です。下線は文庫にあります。

伊・豆・高・原・便り　外伝　・・・夏休み北海道旅行記・・・　(No.155 記)

私は夏休みに家族で 9 泊 10 日の北海道旅行に行きました。

まず福岡から新千歳空港へ飛行機で移動しました。 新千歳空港には、たくさんのおみやげ屋さんやレストランのほかに、ドラえもんパークや、シュタイフ(ドイツのぬいぐるみ屋)ネイチャーワールド(ぬいぐるみで作った動物園)、それに映画館や温泉などがあり、飛行機を利用しなくても楽しめる施設がたくさんあります。

2 日目は、小樽へ行きました。小樽市水族館のオタリア(アシカの一種)の＜学校ショー＞では、算数や体育の授業風景、音楽演奏などが楽しかったです。そのあと、**小樽の運河沿い**を散歩しました。

3 日目は、札幌市円山動物園に行きました。4 月に生まれたばかりのホッキョクグマがとてもかわいかったです。午後は大倉山にウィンタースポーツミュージアムへ。そこでは、いろいろなウィンタースポーツのシミュレーションを体験できます。

4 日目は、旭川へ移動しました。「北の嵐山」と呼ばれるところにある大雪窯へ行き、ろくろを使ってお抹茶茶碗を作りました。お茶のおけいこのときに使おうと思います。午後は旭川市科学館サイパルへ行きました。そこにはとても大きなプラネタリウムや、たくさんの科学体験装置があります。

5 日目は、**旭山動物園**に開園から閉園までいました。カバが水中をのびのびと泳ぐ姿を見て、まるでさかなのようだと思いました。

6 日目は、帯広へ移動しました。**帯広空港**では、普段は行けない＜エプロン＞と呼ばれる**駐機場**に出ました。飛行機をさわりながら見学したり、**特殊な消防車**の運転席に座っていろいろなボタンを操作したり、冬に活躍する除雪車などを見学しました。それから、空港の隣にある父の母校へ行きました。若いころ、4 カ月間学校の中にある寮で暮らしたそうです。とても

なつかしがっていました。

7 日目は北海道で唯一、象がいる帯広動物園へ行きました。ライオンが活発に動いていてめずらしかったです。午後は、日本でここにしかない＜ばんえい競馬＞を見に行きました。馬が重さ 1 トンのそりをひきながら、山をのぼったりおりたりするレースです。あまりスピード感は感じられないけれど、大変な力強さを感じました。レースのチケットを買った父は少しだけおこづかいが増えたと喜んでいました。

8 日目は、札幌へもどり、開拓村へ行きました。ボランティアの人達が、昔の人の服を着ていろいろなイベントを行っていました。中でも＜がまの油売り＞や＜バナナの叩き売り＞の大道芸がおもしろかったです。

最終日は、札幌市内を散歩したあと、札幌市科学館へ行きました。

次の日、出発地点である福岡の祖母の家に帰りました。1 日も雨が降らず、天気に恵まれた、あっという間の 1 0 日間でした。北海道は晴天の日でも日かげに入れば涼しい風が吹く過しやすい夏です。何度でも行きたいところです。

すばらしい紀行文、ありがとう❤
すごいね!!　色々な所へ行って、色々体験したんだね。心に残る旅でしたね❤(さら)